

ニューヨーク J F K 空港、ラガーディア空港、ニューアーク・リバティー空港およびティーターボロー空港において自動フライト・トラッキングおよび料金請求業務ソリューションとして E r a が選定される。

バージニア州、アレキサンドリアー 2006 年 12 月 19 日
ニューヨーク & ニュージャージー・ポートオーソリティー (P A N Y N J) は、航空機識別およびフライト・トラッキング、そして料金請求業務の二つの革新的なプロジェクトとして E r a を契約者として選定した。E r a は「AirScene 空港管理システム」と「E r a M S S (Multisensor Surveillance System - マルチセンサー監視システム) フライト・トラッキング技術」を基にしたソリューションを提供することになった。

E r a はニューヨーク J F K 空港、ラガーディア空港、ニューアーク・リバティー空港およびティーターボロー空港周辺にフライト・トラッキング・センサー・M S S ネットワークを展開する予定である。M S S はエクステンデッド A D S (A D S - X) を基本とし、A D S - B とマルチラデーションを含む各種技術を統合して航空機の極めて正確なトラッキングを行うことができる。A D S - X 方式で、ポート・オーソリティーは、F A A の次世代トラッキング・システムとコンパティブルな先端技術を用いたフライト・トラッキング・システムを展開することができる。

ポートオーソリティーのプロジェクトは二つあるが、同じ M S S センサー・インフラを用いて、異なる用途に AirScene データを利用することになる。一つめのプロジェクトは、現行の C A T E R (Collection and Analysis of Terminal Records - ターミナル記録の収集と分析) システムを E r a が持つフライト・トラッキング技術およびデータ技術を基盤とする自動システムに更新することである。現行の C A T E R システムは、手動で得たデータに大きく依存している。ポート・オーソリティーの目標は、自動システムを用いてデータ収集を自動化することで、データの精度と適時性を向上させることである。このシステムはエレクトロニック C A T E R システム (E - C A T E R) と呼ばれ、ポート・オーソリティーにデータ取得スピードと正確性において大幅な改善をもたらすデータ収集システムを提供することになる。

もう一つのプロジェクトは、ポート・オーソリティーの I A B (Itinerant Aircraft Billing) 航空機料金徴収システムのオートメーション化である。現在のシステムは、ポート・オーソリティーの年間およそ 2 億 5,000 万ドルの料金徴収管理を行うため、報告のないエアラインからの大量のオペレーション・データを集め処理している。

他のほとんどの大空港のように、ポート・オーソリティーは航空機運航者に各種のサービス料金を請求しているが、その中には着陸、駐機、メンテナンス、ランプおよびその他施設利用料金が含まれている。ほとんどの空港はユーザー料金の正確な請求を行うため苦勞している。このポート・オーソリティーの場合、貨物、商用、チャーター、一般航空 (G A) が二つの州にまたがる 4 つの大空港にわたっていることと、その運航回数が多いことで、ますます困難なものとなっている。P A N Y N J オースリティーの管理する 4 空港は、合計で年間運航回数 140 万回以上、航空機乗客 9,400 万人以上を扱い、E r a が提供するシステムは世界で最も大きな空港システムの一つになる。

United States
1881 Campus Commons
Drive, Suite 101
Reston, VA 20191

Tel +1 703 637 7283
Fax +1 703 637 7245

Czech Republic
Prumyslova 387
530 03 Pardubice
Czech Republic

Tel +420 467 004 253
Fax +420 466 670 461